



「勉強だけでなく、気力と体力を伴わないとダメだというのが社会人になって骨身にしみてわかった」と話す近藤

青春スクロール

母校群像記

アナウンサー・落語 語りのプロ輩出

栃木高校（以下、栃高）は放送界にも多様な人材が輩出している。

北海道テレビ放送のアナウンサー、依田英将（27、2005年卒）は弦楽部でバイオリンを弾いていた。3年生の時に栃高祭などで演奏したのが「チャイコフスキー5番」。試験前に、帰宅して仮眠する時に聴いた曲で、思い入れがある。中学時代に先輩からは男子校に行って青春をドブに捨てるようなことをするなど



栃木高校 ②

大阪の毎日放送アナウンスセンター副部長の近藤亨（40、1993年卒）は3年間パドミントン部を続け、生徒会の役員もやった。数学は方程式と不等式で挫折、文系に進んだ。「自分のがんばれる所ががんばれば、居どころはあると感じさせる3年間だった」と振り返る。当時の先生たちの態度にも「お前らのことは

言われたが、人生80年の中で男だけで過ごす時期があってもいい。小さい頃からあこがれていたアナウンサーへの夢を実現し、朝番組「イチオシ！モーニング」で北海道の視聴者に情報を提供している。



大学のアナウンス研究会で神宮球場に行って六大学野球の実況練習をした斉藤。その試合に栃高の同級生が出ていたのが印象深い

1994年に真打ちに昇進、2008年に8代目春風亭柳橋を襲名。全国を精力的に駆け回る

芸演接池



信用しているぞ」という空気を感した。中学生の時からラジオが好きでアナウンスの世界に。野球、サッカー、ラグビーなどスポーツ実況に定評があり、19日に開幕する韓国・仁川のアジア大会では女子サッカー

や卓球で日本の活躍を伝える予定だ。名古屋の東海テレビ放送アナウンス部担当部長の斉藤誠（45、87年卒）は野球部だった。13年、野球解説者となった元中日ドラゴンズ投手の落合英二と球場で顔をあわせた。落合は作新学院出身で、91年ドラフト1位で入団。86年夏の栃木大会4回戦で栃高は作新学院と対戦、落合の前は散発3安打で3対0で敗れた。今では「斉藤さんの甲子園への夢を壊してしまい、すみませんでした」「いやいや」などと語り合う仲だ。正



正門から入るとすぐ目に入る記念図書館「養正寮」。1914（大正3）年に建てられた

アナウンスとは分野が違う

NHKアナウンサー、チーフディレクターだった渡辺英紀（故人、83年卒）は13年7月に49歳で亡くなった。青森、大阪などの放送局で活躍、アナウンサーとしてこれからだ。

比較的近場で楽しめる柳橋の高座は、10月31日に東京・日本橋社会教育会館で開催される「第12回柳橋の会」。または12月14日に野木町文化会館エニスホールで予定する「えにす寄席」。詳細は春風亭柳橋のHP (<http://shunputeiryukyo.web.fc2.com/top.html>) で。栃木高校のOB・同窓会についての情報は jutsunomiya@asahi.com へ。

が、語りのプロになったのが落語家の春風亭柳橋（58、75年卒）。茨城県古河市から通学。書道部に所属して書聖・王羲之を写しにしたりした。栃高祭では「女の子の手を握りたくて」手をみる占師となった。担任の名前をとってその名も「八木野運竹斎」。「意外に自由な高校生活だった」。小さい頃から親に寄席に連れていってもらったことで落語は身近な存在だった。栃木市ふるさと大使も務め、地元でも寄席を開くなど母校思いの作家でもある。（敬称略）